

もつて、城廓とも、権勢ともなく、要塞も、まよの主とひづるほども、民のもの、忠言もあり、毛利の後日の絶運と萌芽の意、ふくられど、義よ強く、あらひで、ある。長秀にて、監激さくしき——けまくべ。二月、央の云天うんてんより、經營全く成就せいじゅ——はせき。

べ。二月廿三日とも川々。御搬居あらせらま。長秀を厚く御賞めある。
備又山下の梯地みへ近臣の人々城佐せ志めんと追々結構成就す
しむ。此小嘗む天守の号稱參總觀と呼稱す。後小總見院のもの構成
のゆやうする緯内外上下えみぞぐく。金銀珠玉あらぬる。四面
鉄鏡を頬に説ば。西より北への琵琶の江湖渺々として碧え深く。これお
蝶出竹生鴻へ。天鉤め絶の勝景也。一過の瞳を惹きれば比良の雲
はく瓊珠洗ひ如意樹の翠縞と織る。南の方の郷と耶。こ。華
ひの像く平て。御神山と白雲山など。天城裂くをうりに聳
也。又東へ伊吹山水關嶽。春夏の色へ赤緑みて。秋冬のま

黄白あるも。最叢ある風氣あり。鰐の社未退遙とて。晝夜人烟た
ちもきらび。千門万户軒を連。農商萬軒棟を並。廣く京築食も
是少過ト。然る事、矯奢の勝ゝも。唐人一歌といふ者。小唐の如く
豐と鑄陶也。誠小武將の居城小足ぬ。階々層々綴らん。天ふや隣也
る境界をさん。加之諸國の大名我もくと參候して。珍異宝物を
献ドける。そのうを幾千万と。隙限更少す。さざれ。天守と。物ハ母
タ。安土城も。妙。

△歎成ハ一
官と不^ト
明福利の
者あり肥
翁の國平
戸小東延
クタ延長
手石されそ
ヒ列^{ヒテ}ニ
移ふ移^{シテ}
安ち天^テちの
毛を焼け毛
少^シニ残^リ
ク^シノ^リ寺

秀吉強諫令二條築城堡屬羽柴明察
トサフニケツミヨヤシモ
トサフニ完居して野處もとつて。それさらふくに安土山ある。百窓環戸
の大城ハ天物鬼神の靈力あり。成就するをうり。結構あり。それ
園を又こよみ。羽柴秀吉頗てより。信長大膽の举止のみゆく。よし
し事も。信房おはと寄宿し。ひ世兵を畏ふのをかが一ける